

メッセージアウトライン

ローマ 1 : 24~32 「神のさばき」

[24-25]まことの神を無視し、偶像を神とし拝む 人間に対して神は彼らとその心の欲望のままに汚れに引き渡された。「引き渡す」の原語には見捨てる、見放すという意味がある。これが神が人間に対してとっておられる態度。神が汚れに引き渡された人間はどのような状態になったのか。→「彼らは互いにそのからだをはずかしめるようになりました」。これは道徳的、性的な汚れ、墮落のこと。神が定められた男女の性のあるべき状態を越えて動物以下に墮落してしまった。これは造り主の代わりに造られたものを拝み仕える偶像礼拝のもたらしたさばきにほかならない。

とこしえにほめたたえ、礼拝しなければならないお方は造り主であるまことの神のみである。「アーメン」とは「まことにそのとおりです」という意味。

[26-27]造り主と偶像を取り換えるという人間の墮落に対するさばきは人間の倫理の基本的なものである男女の性的関係の倒錯となってあらわれてきた。神は人間を恥ずべき情欲に引き渡されたのである。ここで言われているのは同性愛のことである。聖書には人間の墮落したありさまがそのままに記されている。「こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです」とは性的倒錯による人間性の破壊のこと。

[28-31]神を知ろうとしたがらない人間に対して神は彼らを良くない思いに引き渡され、その結果、人間は性的な乱ればかりではなくあらゆる悪いことをするようになった。

「不義」とは神と人との前に正しくないことであり、人間の罪一般を指す。「悪」とは不義の別表現と言える。「むさぼり」は他人の権利を全く無視して自己の利益のみを追い求める精神。「悪意」は悪しきものに魂を向けること。それはすべての罪の前兆である。「ねたみ」は他人に対する嫉妬心。「殺意」は人を殺してやろうという思い。「争い」は地位、名声、役職、出世等に対する欲望から生まれ、嫉妬心と深く結びついている。「欺き」は他人に対する裏切りと詐欺のこと。「悪だくみ」は他人に対して悪い口実をもうけいつも悪い意味に事を展開する卑劣な性質。「陰口」は隠れたところで他人の悪口を言うことに熱中すること。「そしる」は隠れたところではなく公然と人々を中傷し非難し悪口を語ること。「神を憎む」は神を知っておりながら公然と神に反抗し憎むこと。「人を人と思わぬ」は神を無視する高慢な心を持ち、自分が神に造られた者であることを忘れ、他人に対して残酷、侮辱的なこと。「高ぶる」は自分以外のあらゆる人に対して軽蔑心を持つこと。「大言壮語する」は自分が実際できもしないことを実行すると言い、持っていない物を持っていると言い、大見えを張ること。「悪事をたくらむ」は他人に害悪を加えるために次々と悪事を考え出すこと。「親に逆らう」は説明の必要なし。「わきまえない」は愚かなこと。「約束を破る」は不誠実なこと。「情けしらず、慈愛のない」は人間の自然な愛情、親切、優しさといったものを無視すること。これらは当時の世界だけでなく現代の私たちにも語られていることなのである。

[32]「彼らは、そのようなことを行えば、死罪に当たるという神の定めを知っていながら、それを行っているだけでなく、それを行う者に心から同意しているのです」

悪を行う者は罰せられる。すべての人間は神の前にさばかれる。罪の報酬は死である。このような神の定めを知っていながらそれを行う者に心から同意している。これが神に反逆している人間の現実。このような罪の悲惨から救い出すことのできるのは神の御子である救い主イエス・キリスト以外にはない。それゆえパウロはそして私たちはこの福音を宣べ伝えるのである。